

PONO²

ポノ・ポノ

vol.8

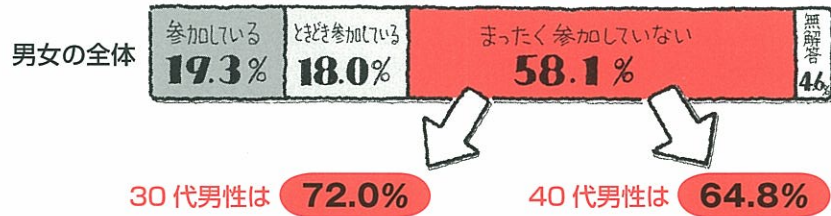
2006.10 発行 浦安市 経営企画部 企画政策課 人権・男女共同参画班
〒279-8501 浦安市猫実1-1-1 TEL 047 (351) 1111
編集：情報誌編集講座「今日から、私はエディター・ライター」受講者

特集 「浦安づくり」—あなたは参加していますか？

浦安の人口は2006年に、16万人に近づきました。年代別に見ると、20代後半から30代の割合が高くなっています。特に子育て世代に人気が高いといわれる浦安。この街は本当に住みやすい街なのでしょうか。地域にすぐにとけ込むことができ、大人も子どもも安心して暮らせる街なのでしょうか。

ポノ・ポノでは、子育て世代の男性、通勤族の妻たちにスポットをあてて、声を集めてみました。本当に住みやすい「浦安づくり」あなたも考えてみませんか。

■ 地域で活動する男性たちは？



グラフ：「男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査報告書」浦安市（2006年）、社会活動への参加状況

30～40代の働き盛りの男性は、地域活動をする割合が少ないことがわかりました。その一方で、積極的にイキイキと活動している人に出会いました。お二人はどんな工夫をされているのでしょうか。お聞きしてみました。



子どもがいるから地域が楽しい！

あいだ 会田誠さん(30代) 家族：妻、小学生1人、幼稚園1人

Q1 どのような地域活動をされていますか？

子どもの通う幼稚園の遊具やベンチなどの修理をボランティアで行っています。「いろいろ壊れてきて困っている」という園長先生の声を耳にして、これなら僕でもなおせるかな…そう思って逆上がりの練習台をなおしたのがきっかけです。ほかには職員室の壁の塗り替えなんかもしました。

僕は幼稚園で物をなおすとき、わざと子どもたちのいる前でします。すると、子どもたちがワッと寄って来ます。物をなおすのも珍しいのですね。だから、なるべく一緒にやるようにしているんです。子どもときの体験は貴重だし、もっといろいろな体験をさせてやりたいですからね。

Q2 時間をやりくりしての地域活動ですが、なにか工夫はありますか？

仕事はシフト制で、昼間に時間がとれる。だから幼稚園の開園時間にボランティアをすることもできます。テレビはあまり見ないからですし、昼間に家でのおんぶりということもないですね。それに、休みの日のほうが早起きです。朝寝坊したら大事な時間ももったいない。今日は子どもたちと何をして遊ぼうかいつも考えているんです(笑)。

Q3 地域活動を通して自分にプラスになったことは？

先生や父母の方、違う分野の人と話すのがおもしろい。幼稚園の送り迎えもよく行きますが、他のお母さんと話すのも実は楽しみなんです。皆さんがどう思っているかはわかりませんが…(笑)。

僕は近所の子どもの見かけると、無言で通り過ぎるのがいやで、つい声をかけてしまう。だから話しかけた子どもの名前はたいてい覚えています。広場で自分の子どもと長縄で遊んでいると、学年にかかわらず集まってきて、いつの間にか10人以上で飛んでいたり、なんてこともよくあります。こうなると、僕のほうが遊んでもらっている感じがですね。

Q4 同年代の男性へのメッセージ

育児も家事も一人でやっているという女性は多いですね。本当に大変だと思います。子どもが親と遊んだり、ふれ合ったりするのはいいときだし、それを楽しまないともったいない。だからお父さんももっと長く、家族と過ごせるようになるといいですね。



仲間がいるから地域が楽しい！

かわすけ 原兼輔さん(40代) 家族：妻、小学生1人

Q1 どのような地域活動をされていますか？

5年前からマンションの自治会の役員をしています。私たちのマンションは、完成前から入居予定者の間でメーリングリストができていて、交流会に何度か参加したのがきっかけです。そのときの仲間が中心になって、自治会が発足していきました。

Q2 時間をやりくりしての地域活動ですが、なにか工夫はありますか？

月1回の役員会、お祭りなどのイベント時には確かに時間を取られます。でも、楽しみながらやっているんで、特別にやりくりしているとは感じません。都内に勤務していますが、土日が休みで、平日もあまり夜遅くならないので、無理なくできるのでしょうか。その他、小学校で発足した「おやじの会」のメンバーにも加わっています。

ペットボトルでいかだをつくりプールでマンション対抗レースをしたり、デイキャンプやうどんづくりをするなど、子どもをダシ(?)にして、参加しています。もちろん、妻や他のお母さん方のバックアップがあるからこそ、親子で楽しむことができるんだと思いますね(笑)。

Q3 地域活動を通して自分にプラスになったことは？

マンション内で飲み仲間が増えたので、街の情報が入ってきます。また、他の自治会の方々との交流もいろいろな情報交換に役立っています。

自治会ではお祭りの他、クリスマス会、餅つき大会など、いろいろなイベントを企画しています。住民の交流のきっかけにしてもらいたいですね。顔見知りが増えることによって、見慣れない人や不審者に早く気づくことができますし、災害が起きたときに、一人でも多く助け合うことができると思います。だから普段から、声かけは欠かせないようにしていますよ。

Q4 同年代の男性へのメッセージ

近くで地域のイベントなどがあつたら、参加してみることでいいですね。それも難しかったら、自分の趣味を通して仲間を探す方法もいいと思います。

私は最初、趣味のルアー(疑似餌)釣りは一人でやっていた。子どもの親仲間を誘ったり、ネットで近くの釣り仲間を探しているうちに、どんどん仲間が増えてきました。交流会では30人ほど集まったこともあり、こちらが驚いたくらいです。まずは参加しないことには始まらない！ 勇気を持って参加してみましょう。

うらやす NOW

集まれ、市民の力。

◆市民会議に参加していない市民の声は？

無作為に選んだ3,000人の市民に、アンケートを郵送し、広く意見を求めていきます。また、市民会議のホームページに「電子会議室」を開設し、意見をいただく場をつくる予定です。同時に、市民会議の議事録についてもインターネット上で閲覧できるように更新していきます。

◆市民会議に期待するものは？

この市民会議では、準備会の段階から公募市民がかかわり、市民のための市民による街づくり計画を進めています。これは市民だけでなく行政にとっても前例のない大きなチャレンジです。誇りをもてる街づくりのために、職員では思いつかないようなアイデアを出していただき、市との協働による計画づくりを実感していただきたいと思います。



いま浦安の

すてきな人

渡邊博信さん・洋子さん

仕事の傍らテキパキと家事をこなす夫と、外でイキイキ働く妻がいると聞き、日々の暮らしや将来の夢について話をうかがった。

転勤族の妻がみた！ 浦安



さまざまな地域での生活を経験している転勤族の妻。彼女たちに、浦安の街はどのように映るのでしょうか？ 11人の声を集めてみました。

「こんな晴れた日には、布団が干したくなりますね」。窓の外を眺めながらこう言ったのは、渡邊博信さん。食事の支度に子どものお弁当作り、買い物から掃除に洗濯まで、「家事は全般的に好き」と答える博信さんの家事レパートリーは広い。「子どもの頃から自分のことは自分でやるようしつけられてきたからでしょうか」と話す博信さんには、家事の役割分担という概念がない。「やれる方がやる」「気持ちよくあればそれでいい」という考えからだ。妻の洋子さんは「ときによっては私より夫の方が家事をやる割合が多いことも。子どもの勉強もよくみてくれますし、PTAの役員も引き受けてくれたんですよ」と話す。

博信さんは木材の輸入販売業を営んでいる。早朝に起床し、パソコンと電話を使って米国の企業とやり取りをしながら、仕事を開始。手があくと洋子さんとともに、朝食の準備に取り掛かる。一方、洋子さんは英語教室を開いている。多少時間の融通がきく博信さんとは対照的に、午前中に家事、午後は仕事ということで、規則的な毎日を過ごしている。

夫がいわゆる SOHO (Small Office Home Office の略。自宅や小さな事務所で IT などを活用して事業を営む事業者) をしながら家事もこなし、妻が外へ働きに出るという現在の生活スタイルに至ったきっかけは、博信さんの母の介護問題だった。洋子さんが介護をしていたが、「このまま妻にまかせっきりでは家庭が崩壊する」との思いから、退社、独立するに至った。

取材中、「夫は家族に対して思いやりの深い人」とたびたび口にしていた洋子さんも、行動力のある人だ。「ももとは高校の国語の教員」だったとのこと。夫の会社員時代に米国駐在が決まり、同行。その間、現地の人の輪へ積極的に入って行って、英語をマスターした。洋子さんが夜仕事があるときは、夕食の支度をする博信さん。妻の働きぶりに、「経済的にも支え合っている安心感があります」と話す。

だが、この生活スタイルを始めた当初、周囲の目には奇妙に映っていたこともあったようだ。子どもの友だちが、「おじさん、リストラ？」と聞いてきたことも。笑い話として披露してくれたこのエピソードも今となっては昔話となり、「だいぶ認知されてきた」とのこと。

「遠い将来の話ですが、仕事の拠点として浦安にマンションを持ちつつも、田舎に引っ込んで今の暮らしを続けてみたいと思っています。子どもたちには、自分たちが子どもの頃に見た『田舎』を経験させてあげたいんですよ」

テーマパークや都心の観光スポットなどが近いので遊んでばかりです。

公園、図書館、公民館などが充実していて、子どもとよく利用します。

銀行、病院が徒歩で行ける場所にあり、スーパーも遅くまで開いていて、とても便利。浦安ではお隣さんに頼ることがなくなりました。それが良いのか悪いのか…。

同じ市内でも地域どうして交流がないので閉塞的。違う地域には行きづらいわ。



いざというとき、気兼ねなく頼れるところがないので、不安です。気を張って生活するので、めいっぱいエネルギーを使っています。

街並みが整然としていて、空間が広々。気持ちが良いです。

サークル活動などの誘いも多く、外に出るきっかけが、たくさんあります。

コミュニティ誌などが充実していて、情報が集めやすいですね。



働きたい気持ちがあるのに、子どもを預かってもらえるところが少なくて…。

浦安は新しい街なので、学校、公園などの公共施設が充実していると聞いていましたが、実際住んでみて地域によって差があると感じます。

以前住んでいたところでは〈たびの人〉と呼ばれ、何をしてもとけ込めず、つらい思いをしました。浦安では、新しい住民や転勤族が多いせいか、そのときのような疎外感を感じません

交通ルール、ゴミだしなどマナーを守らない人が意外と多いですね。

編集に携わって

「ポノ・ポノ vol.8」は平成 18 年度情報誌編集講座「今日から、私はエディター・ライター」を受講した私たちがつくりました。
河野悦子：ポノ・ポノを通じて知り合った人々、ポノ・ポノに協力して下さった方々、謝謝！
土屋圭子：編集のいろはは奥が深きり産みの苦しみ 経て自画自賛
長野俊子：同じ子育て世代として、考えさせられるテーマでした。結論は…自分次第！

伯野朋絵：今号は人と人のつながりの大切さを実感。協力してくれた皆様 感謝感謝です。
林 久子：あるだけの知恵搾り出し、言葉一つも気を配る作業。勉強になりました。
藤井園子：私も転勤族の妻。これからも続くテーマをじっくり考えられました。
藤光英恵：私のスイッチがはいった。ここ浦安で。
渡部愛子：インタビューは聴く人によって受け止め方、描き方が違う。ウー…。

■ 永住を希望



■ 他地域と比べた交通アクセス



■ 浦安を選んだ理由



転勤族の妻たちはイキイキ！

サラリーマンの夫に伴い、転勤族の妻として、各地で生活をおくる女性たち。会社の都合で今までの生活を変えなければならないなど、転勤族ならではの苦労があると想像していましたが、お話を伺った方々は、みな、イキイキと生活していました。「引越してすぐに学校役員を引き受ける」「公民館などの催しものに参加する」など積極的に地域参加している方がたくさんいました。また、「友だちづくりなど焦らず、家族のつながりを大切に考えている」という声もありました。

街がいい浦安から「街もいい！人もいい！浦安」へ

交通アクセスや住環境など、ハード面は評価の高い浦安です。それでは、人づきあいなど、ソフト面はどうでしょうか。浦安の中でも地域ごとに特徴があり、互いを受け入れていないという状況もみえました。転勤族と永住者の間にも微妙な心の垣根があるようです。互いを認め合い、受け入れ、助け合える人づきあいができる地域づくりが大切ではないでしょうか。

「ポノ・ポノ」の意味

ハワイ語の「PONO」（意味は、正しさ、幸福、繁栄など）に由来します。2つ並べて「ポノ・ポノ」と声に出してみたときの響きが親しみやすいでしょう！